

Studia Asiatica Series 発刊

印哲研究室は研究書のモノグラフ・シリーズ、Studia Asiatica の出版を続けている。これまでに3冊が出され、No.4がこの初夏に出版される予定である。このシリーズ発刊のきっかけとなったのは、故北川教授著、菱田邦男編 Sanskrit Reader (Studia Asiatica, No.1)を出したことであった。

北川先生の遺稿 Sanskrit Reader を出版することができたのは、ひとえに諸先生、研究室卒業生、また北川先生と縁のあった多くの方々の御援助の賜物である。デーヴァナーガリー文字を組むのは日本ではほとんど不可能なため、バンダルカル研究所にお願いした。この遺稿を出版する際に、ただこの一冊の発行に終らせるのではなく、モノグラフのシリーズの発行を思い立った次第である。

東洋文庫チベット研究室に残されている多田等観氏のノートの中にツォンカパの『真言次第』の科文を見つけ、その複製の許可を得て、No.2 Sngags rim chen po^hi sa bcad を出すことができた。続いて北川先生のノートの中からNyāyasiddhāntamuktāvalī の最初の部分(26頌まで)に関する註を見つけ出し、これをリプリントすることができた(No.3, Muktāvalīdarpaṇam)。このタイトルは先生御自身のものではなく、54年度プーナ大学からの留学生S. バフルカル氏の助言によるものである。この本は、先生が1975年プーナに滞在されたときバンディット・S. Kurundkar 先生より受けられた講義をサンスクリットでまとめられたものである。クルンドカル先生はプーナ大学を去り、今はアマルネルに居られる。

1977年の秋、宮坂教授の御努力により、浜松の常楽寺、建部龍憲師のものとの図書館に約200冊のチベット仏教文献を購入していただけることに

なった。その選定は当研究室に一任された。浜松の鴨江寺国際仏教徒協会研究員ツォティム・ケサン先生(この数年来、印哲研究室の講師をしていただいている)の御助力によって、無事インドよりチベット文献を購入することができた。この文献目録(約170頁)が *Studia Asiatica*, No. 4 としてこの夏前に出版される予定である。

No.1, *Sanskrit Reader* 出版の際に御援助いただいた資金を基に、できる限り販売し、基金の回収に努めてはおりますが、残額はわずかであります。皆様の御協力をお願いする次第です。なおこのシリーズの中に出版御希望の方は、印哲研究室までお知らせください。

Studia Asiatica

- No.1 *Sanskrit Reader*, by H. Kitagawa, ed. by K. Hishida, ¥1000.-
- No.2 *Sngags rim chen pohi sa bcad*, by T. Tada, p.28 ¥500.-
- No.3 *Maktāvalīdarpaṇa*, by H. Kitagawa, p.167 ¥1000.-
- No.4 *Catalogae of Tibetan Literature in Jōrakaji Temple, Hamamatsu* p.170 (近刊) ¥2000.-